

令和3年度食品安全モニター課題報告
「食品の安全性に関する意識等について」
(概要)

I 調査の概要

1. 調査目的

食品安全モニターを対象とする調査から、食品の安全性に係る意識等について明らかにする。

2. 調査対象

食品安全モニター449名

有効回答数415名（有効回答率：92.4%、回答者内識別紙参照）

3. 調査方法

インターネットによるアンケート調査

4. 調査期間

令和4年1月28日～令和4年2月14日

5. 調査項目

- <1>食品の安全性に係る危害要因等について
- <2>食品安全セミナー（農薬の再評価等）について
- <3>食品安全委員会とのコミュニケーションについて

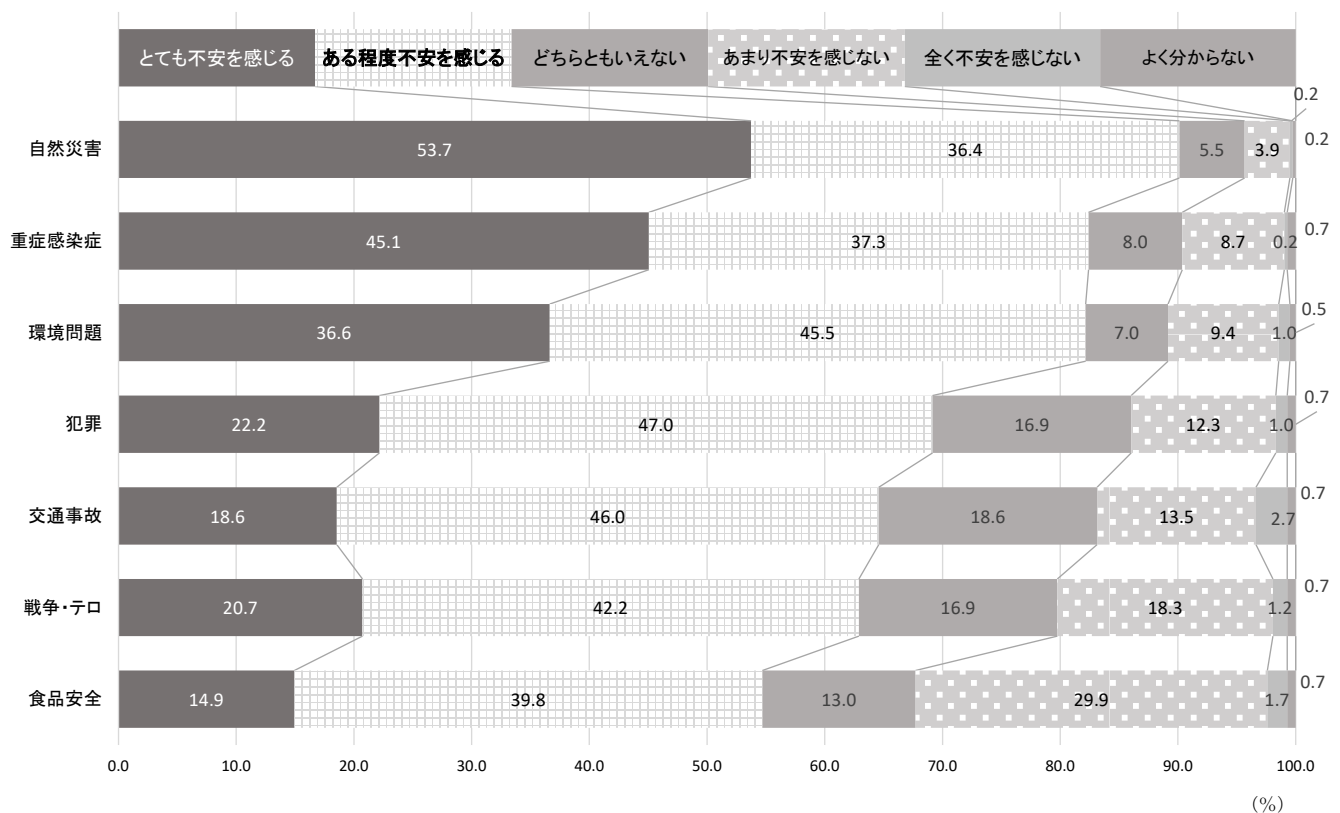
Ⅱ 結果の概要

＜1＞食品の安全性に係る危害要因等について

(1) 日常生活を取り巻く分野別の不安の程度

9つのリスク分野（自然災害、重症感染症、犯罪、経済不安、交通事故、環境問題、原発事故、戦争・テロ、食品安全）について聞いたところ、「とても不安を感じる」又は「ある程度不安を感じる」と回答した者の割合は、「食品安全」（54.7%）が最も低かった。各分野のうち、「自然災害」が90.1%、「重症感染症」が82.4%、「環境問題」が82.1%の順で不安の程度が高かった（図1）。なお、「食品安全」の不安の程度が最も低いのは7年連続である。

図1 日常生活を取り巻く分野別の不安の程度（n=415）

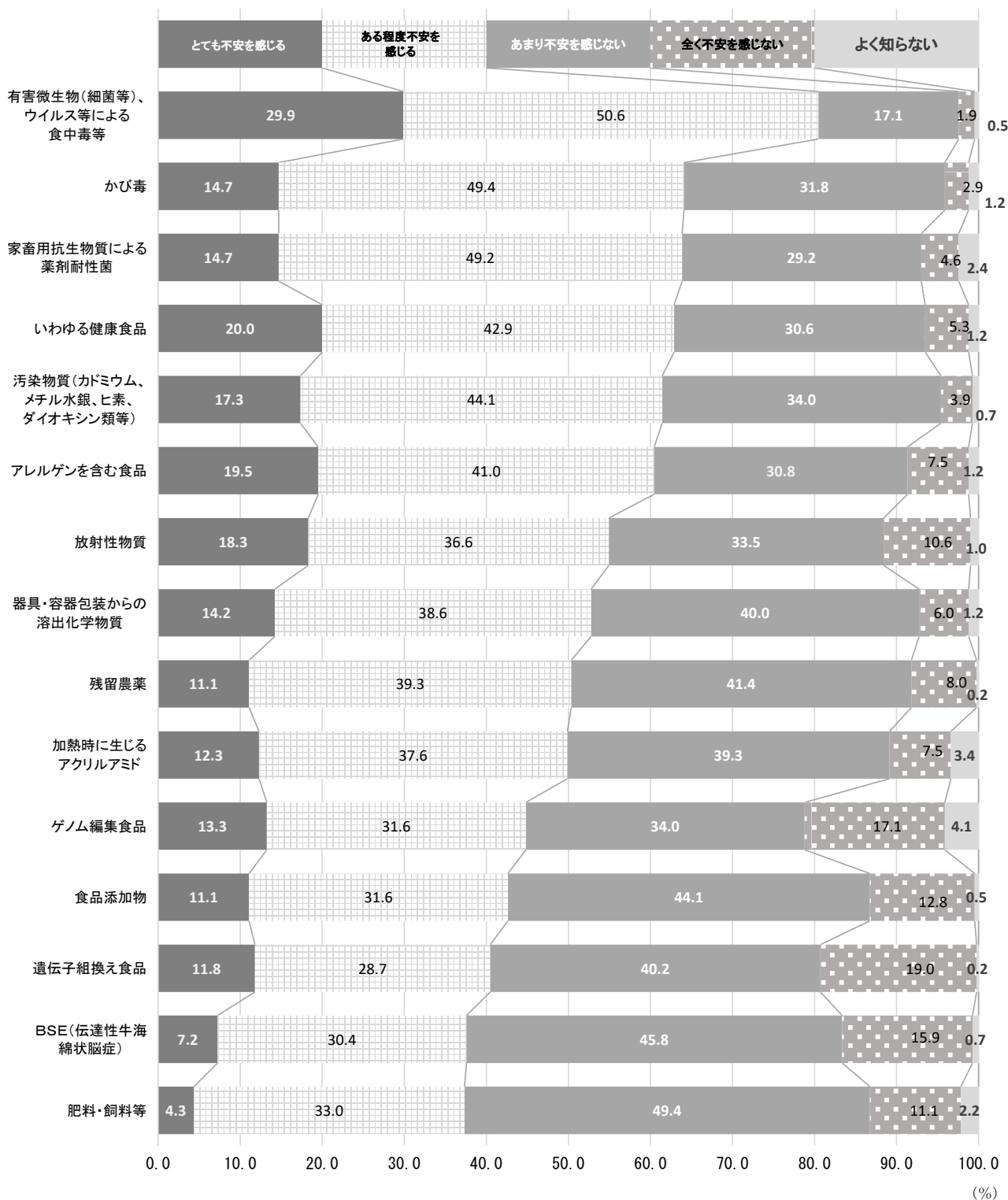


※「とても不安を感じる」「ある程度不安を感じる」の合計が高い順に並べたグラフにしている。

(2) 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度

食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安について聞いたところ、「とても不安を感じる」又は「ある程度不安を感じる」と回答した者の割合は、「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」（80.5%）が最も高く、次いで「かび毒」（64.1%）、「家畜用抗生物質による薬剤耐性菌」（63.9%）、「いわゆる健康食品」（62.9%）の順であった（図2）。

図2 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度（n=415）



※「とても不安を感じる」「ある程度不安を感じる」の合計が高い順に並べたグラフにしている。

(3) 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度（年度別推移）

食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度の年度別推移をみると、「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等」は、平成24年以降10年連続1位である。2位は「かび毒」、3位は「家畜用抗生物質による薬剤耐性菌」となっている。4位の「いわゆる健康食品」は平成25年度以降60%を超えている。

表1 食品の安全性の観点から感じるハザードごとの不安の程度（年度別推移）
（「とても不安である」「ある程度不安である」の合計割合の上位7位）

年度	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位
今回調査	有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（80.5%）	かび毒(64.1%)	家畜用抗生物質による薬剤耐性菌(63.9%)	いわゆる健康食品(62.9%)	汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素、ダイオキシン類等）（61.4%）	アレルギーを含む食品(60.5%)	放射性物質（54.9%）
令和2年度	有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（83.2%）	かび毒（72.5%）	いわゆる健康食品（60.5%）	汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（59.4%）	家畜用抗生物質による薬剤耐性菌（57.4%）	残留農薬（56.3%）	器具・容器包装からの溶出化学物質（55.5%）
令和元年度	有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（85.1%）	家畜用抗生物質による薬剤耐性菌（66.1%）	いわゆる健康食品（62.6%）	かび毒（61.9%）	アレルギーを含む食品（59.9%）	汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（53.9%）	器具・容器包装からの溶出化学物質（52.8%）
平成30年度	有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（86.7%）	家畜用抗生物質による薬剤耐性菌（66.9%）	いわゆる健康食品（64.9%）	かび毒（64.6%）	アレルギーとなる物質を含む食品（61.8%）	汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（60.9%）	放射性物質（54.0%）
平成29年度	有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（83.4%）	いわゆる健康食品（63.6%）	かび毒（62.0%）	家畜用抗生物質による薬剤耐性菌（59.1%）	アレルギーとなる物質を含む食品（57.5%）	放射性物質（51.5%）	汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（49.9%）
平成28年度	有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（82.8%）	いわゆる健康食品（61.7%）	かび毒（61.5%）	家畜用抗生物質による薬剤耐性菌（59.1%）	放射性物質（56.5%）	アレルギーとなる物質を含む食品（55.7%）	汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（51.9%）
平成26年度	有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（78.5%）	放射性物質（64.1%）	いわゆる健康食品（64.1%）	残留農薬（58.8%）	家畜用抗生物質（55.4%）	汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（53.6%）	食品添加物（50.4%）
平成21年度	有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（79.6%）	汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（78.1%）	残留農薬（73.1%）	家畜用抗生物質（68.2%）	器具・容器包装からの溶出化学物質（67.5%）	遺伝子組換え（64.6%）	食品添加物（62.5%）
平成16年度	汚染物質（カドミウム、メチル水銀、ヒ素等）（91.7%）	残留農薬（89.7%）	家畜用抗生物質（83.5%）	有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒等（80.9%）	食品添加物（76.4%）	遺伝子組換え（74.7%）	BSE（伝達性牛海綿状脳症）（74.5%）

※初回調査平成16年度より平成26年度まで5年置きに記載

＜2＞食品安全セミナー(農薬の再評価等)について

令和3年10月28日(木)15時から17時に、農薬の再評価をテーマとして、食品安全委員会委員の他、厚生労働省、農林水産省、環境省、消費者庁の担当者が出席し話題提供し質問に回答する、食品安全セミナーをオンラインで開催した。この件に関し調査をした。

(1) 食品安全セミナー(農薬の再評価等)の開催を知っていたか

食品安全セミナー(農薬の再評価等)の開催を知っていたか聞いたところ、「知っていた」は65.3%であった。また、何により開催を知ったか聞くと、食品安全委員会メールマガジンが70%を超え、他の媒体に比べ特に多かった。

図3 食品安全セミナー(農薬の再評価等)の開催を知っていたか (n=415)

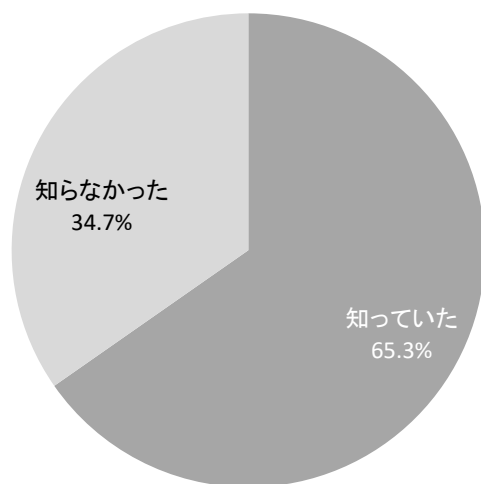
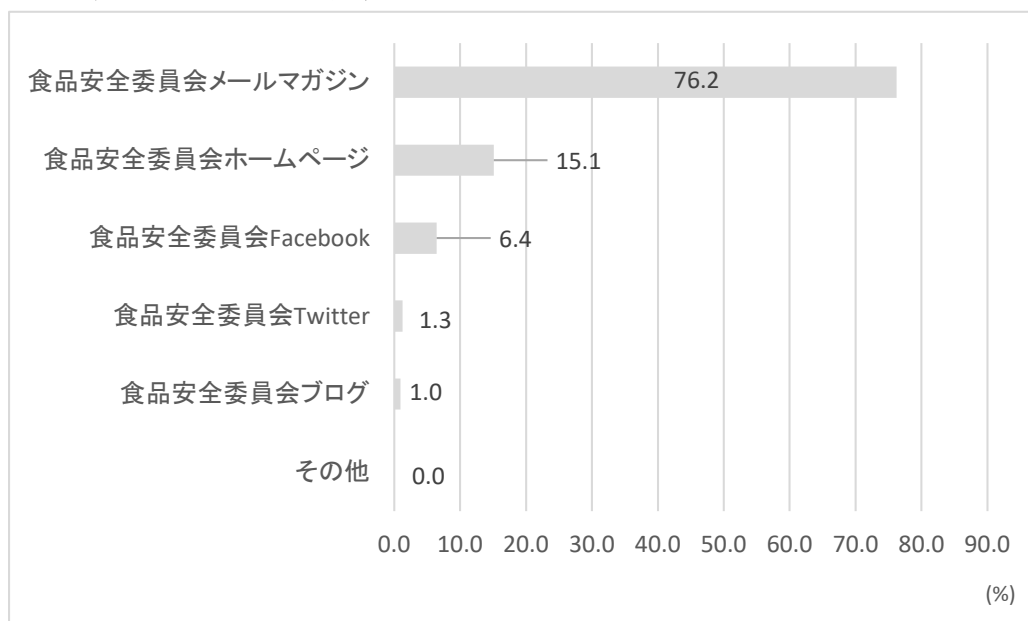


図4 何により開催を知ったか(複数回答)
(各情報源の回答数/有効回答数(n=271)(%))



(2) 食品安全セミナー(農薬の再評価等)に参加したか

食品安全セミナー(農薬の再評価等)の開催を知っていた者のうち、参加した割合は16.2%であった。また、参加しなかった理由については「セミナーの開催時間に都合がつかなかったから」が70%を超え、他の理由と比べ特に多かった。

図5 参加状況 (n=271)

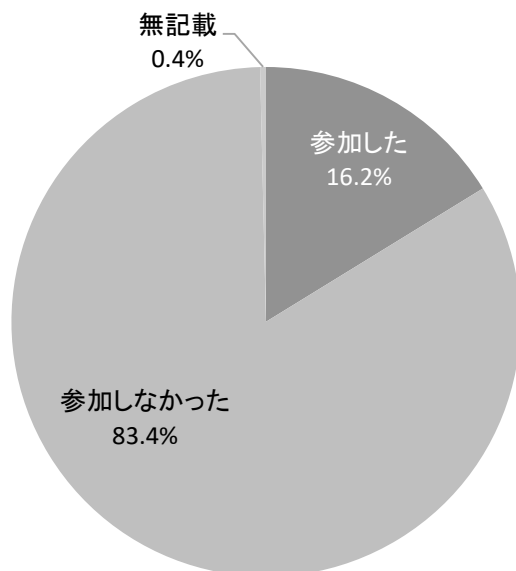
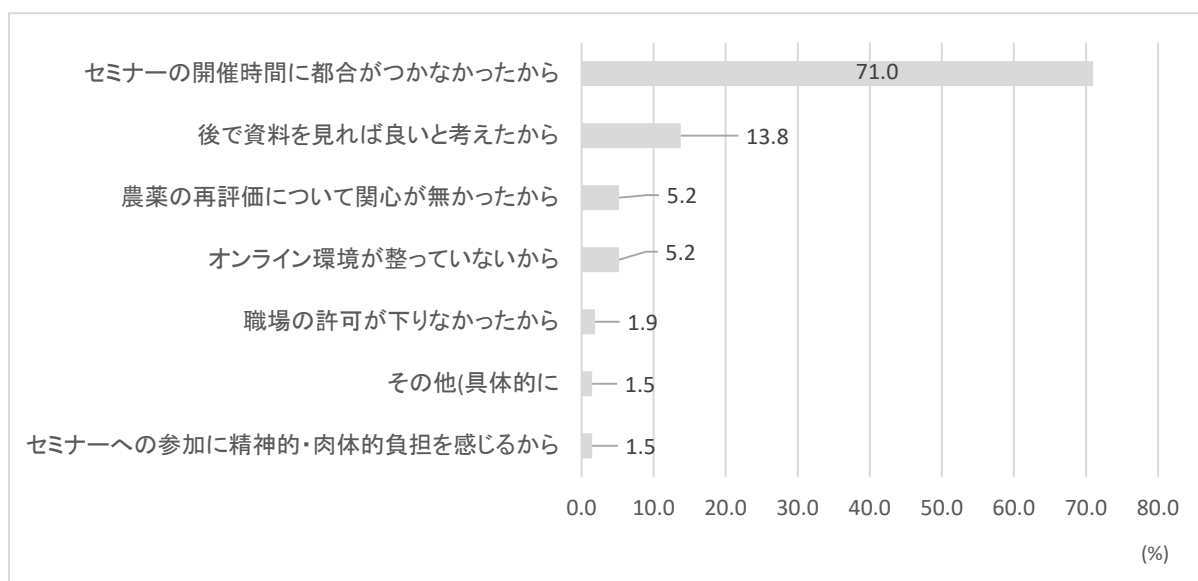


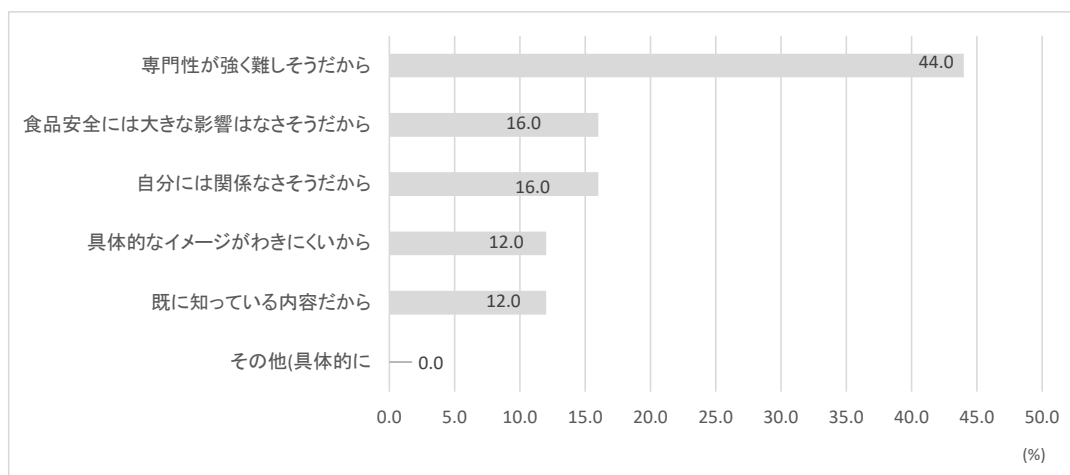
図6 参加しなかった理由(複数回答)
(各情報源の回答数/有効回答数(n=226) (%))



(3) 食品安全セミナー(農薬の再評価等)の無関心の背景

参加しなかった理由のうち、「農薬の再評価について関心が無かったから」を選択した者に、更にその背景について問うてみると、「専門性が強く難しそうだから」という理由が40%を超え特に多く、次いで「食品安全には大きな影響はなさそうだから」、「自分には関係なさそうだから」という理由となっている。

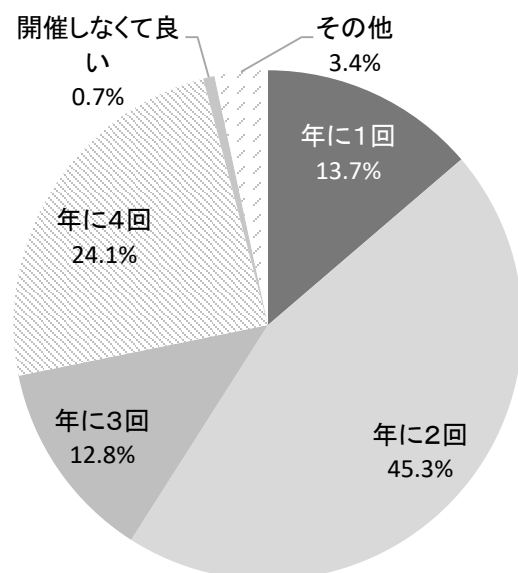
図7 関心が無かった理由(複数回答)
(各情報源の回答数/有効回答数(n=14)(%))



(4) 食品安全セミナーの希望開催回数

食品安全セミナーの希望開催回数を聞いたところ、2回が45.3%と最も多かった。次いで、1回が13.7%となっている。

図8 セミナー希望回数(n=415)



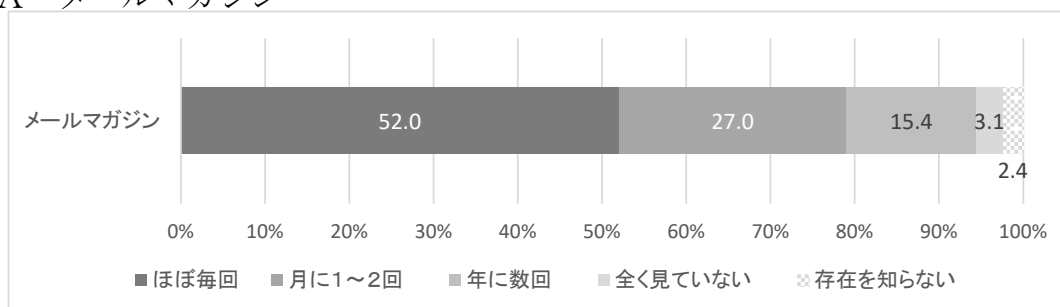
＜3＞食品安全委員会とのコミュニケーションについて

(1) 食品安全委員会の情報の閲覧状況

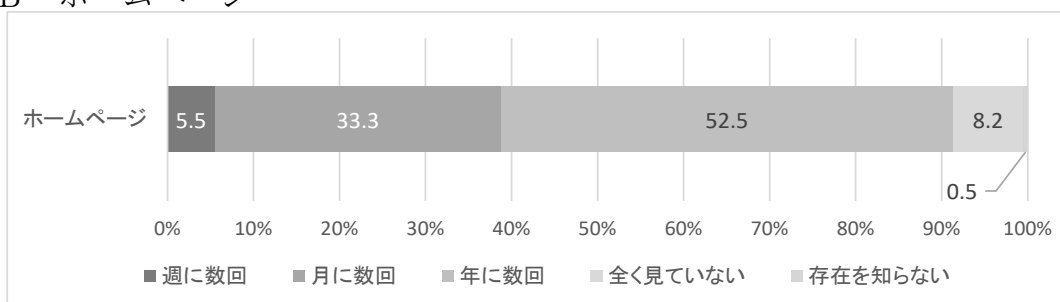
食品安全委員会の情報（電子媒体）をどの程度閲覧しているか聞いたところ、以下の通りであった。メールマガジンを「ほぼ毎回」見ている割合は50%を超えており、ホームページを「週に数回」見ている割合は5%程度と低水準に止まった。FacebookとTwitterでは、「フォローしてわりと読んでいる」割合はFacebookで20%を超えているが、Twitterでは7%程度に止まった。YouTubeでは、「チャンネル登録してよく見ている」割合は7%程度に止まり、ブログにおいては「週に数回」見ている割合は1%程度と非常に低水準になっている。

図9 食品安全委員会情報の閲覧状況等 (n=415)

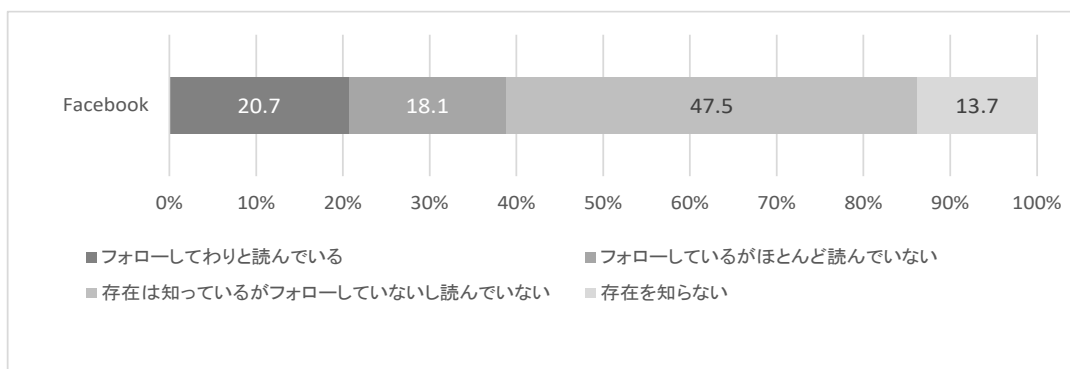
A メールマガジン



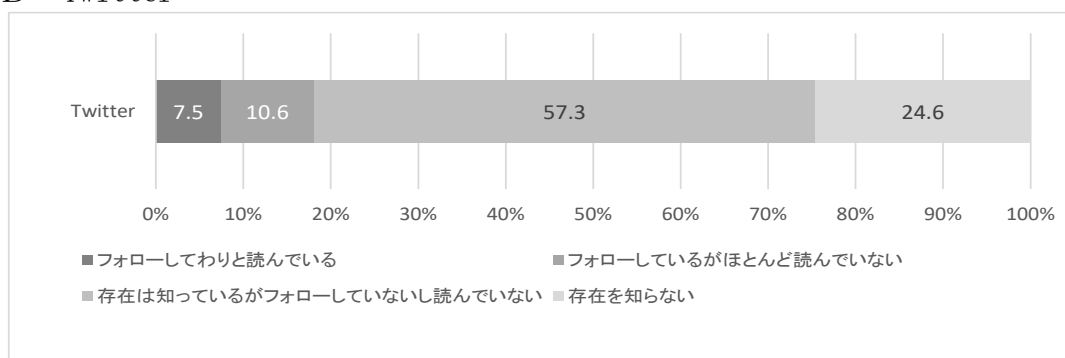
B ホームページ



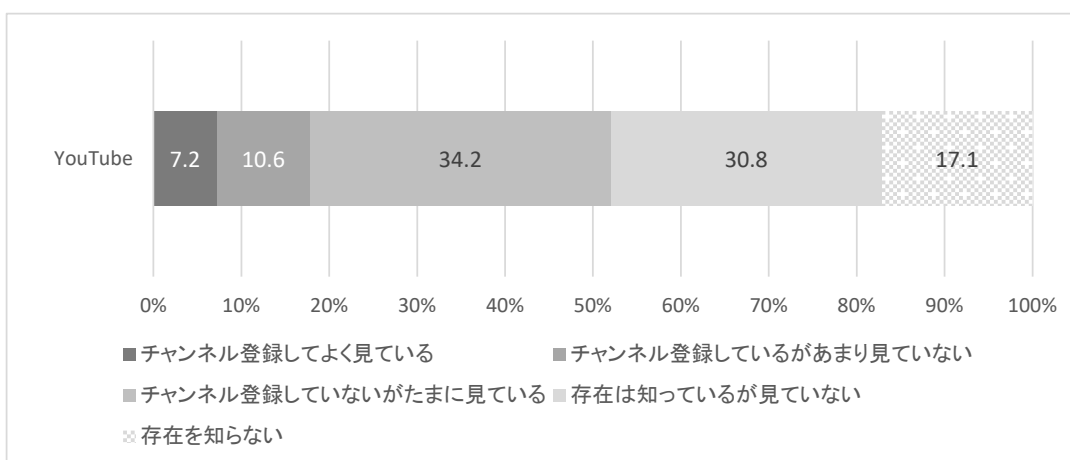
C Facebook



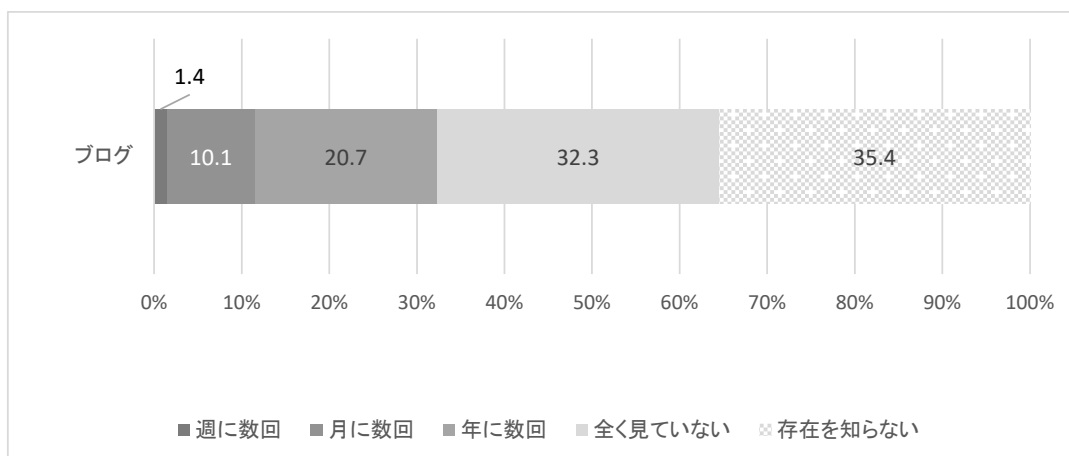
D Twitter



E YouTube



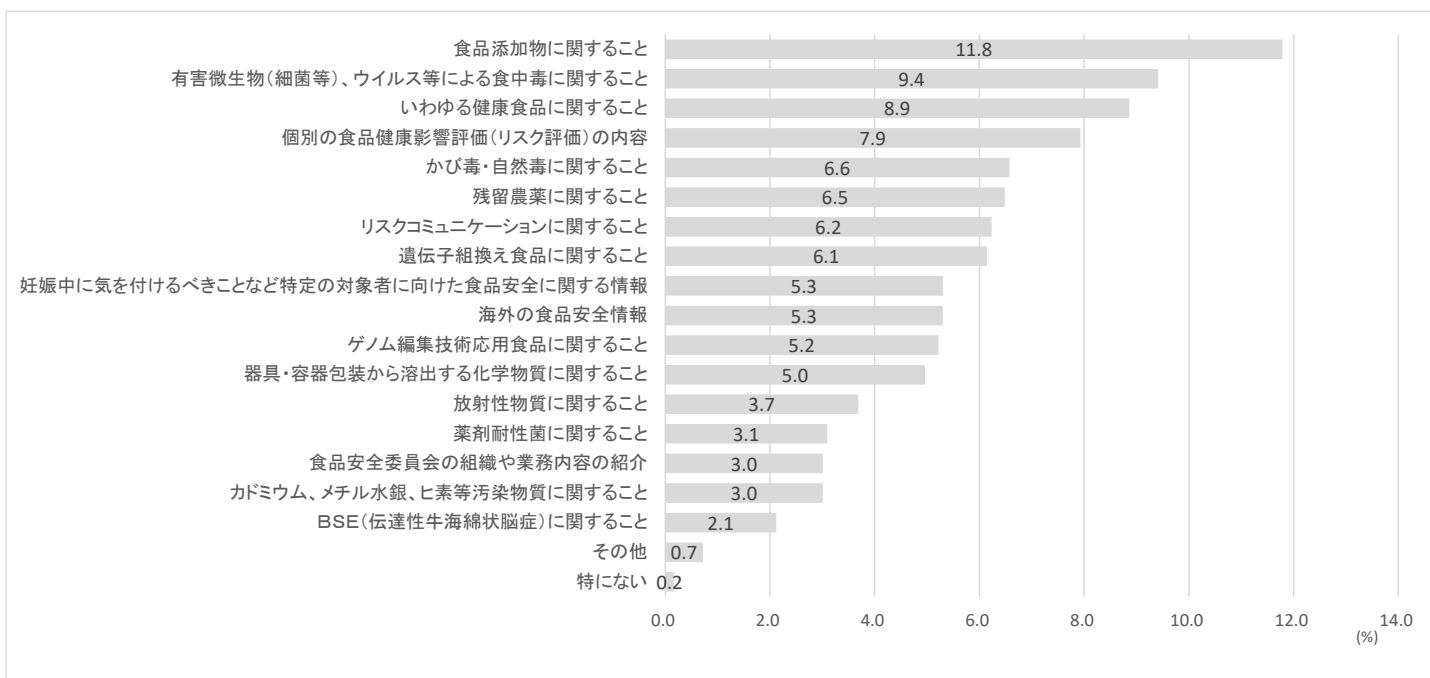
F ブログ



(2) 食品安全モニターとして周囲の方に伝えたい内容

食品安全モニターとして周囲の方に伝えたい内容について聞いたところ、「食品添加物に関すること」が最も多く、次いで「有害微生物（細菌等）、ウイルス等による食中毒に関すること」、「いわゆる健康食品に関すること」となっている。

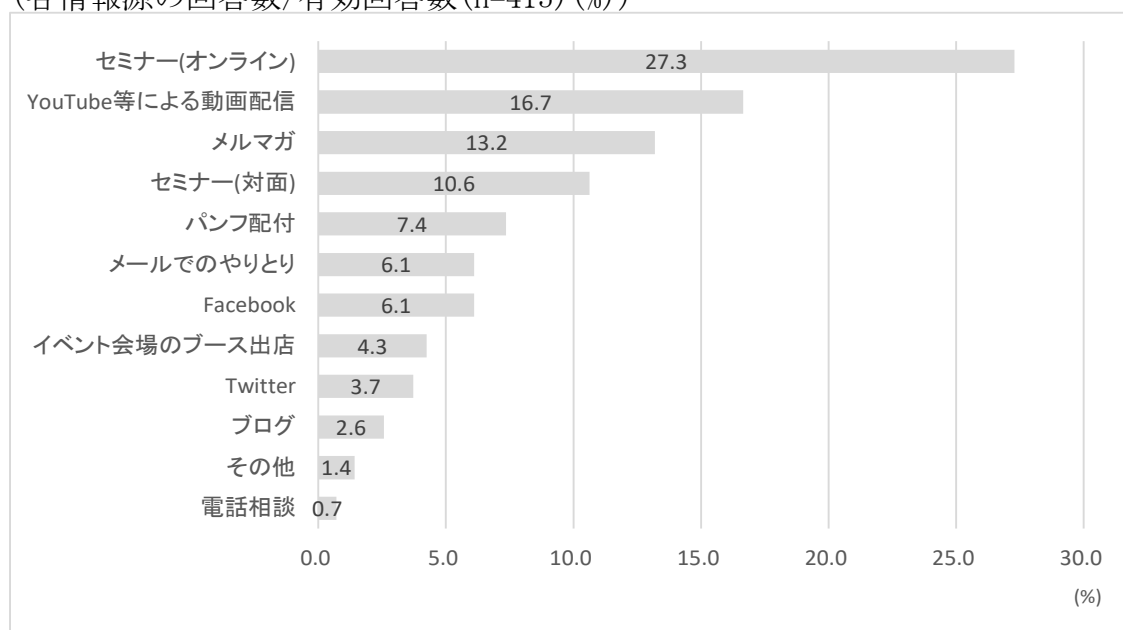
図10 食品安全モニターとして周囲に伝えたいこと(複数回答)
(各情報源の回答数/有効回答数(n=415)(%))



(3) どういう方法で食品安全委員会とのコミュニケーションを望むか

食品安全委員会とどういう方法でコミュニケーションをとりたいか聞いたところ、「セミナー(オンライン)」が最も多く、次に「YouTube等による動画配信」、「メルマガ」となっている。

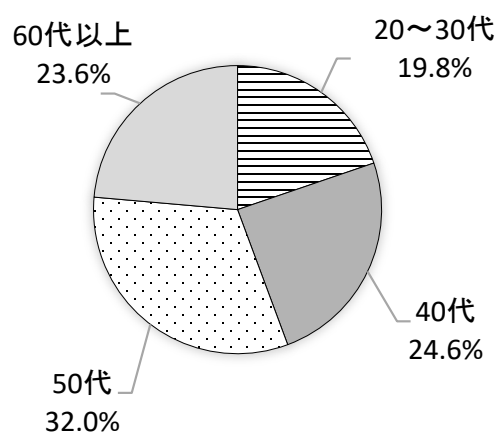
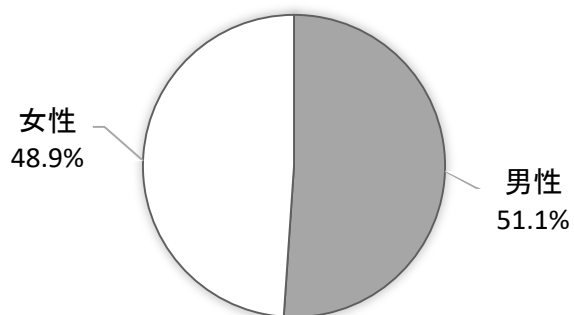
図 11 食品安全委員会とのコミュニケーション方法の要望(複数回答)
(各情報源の回答数/有効回答数(n=415) (%))



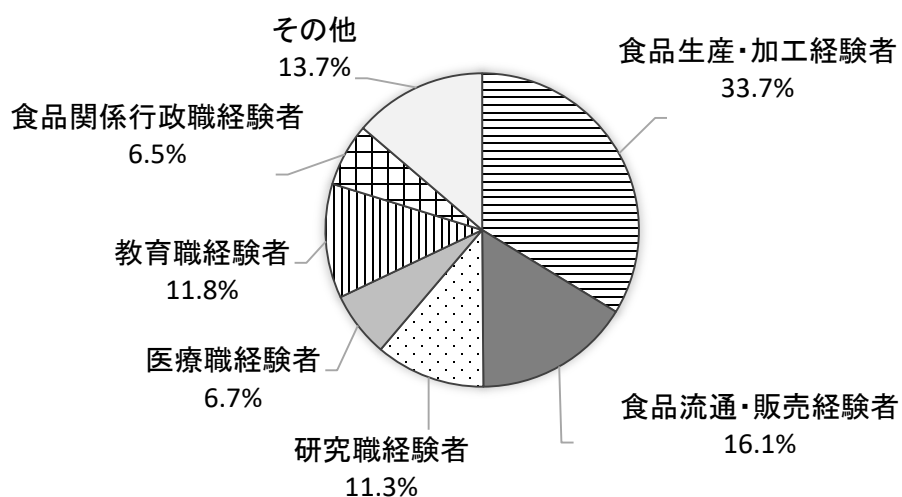
以上

調査回答者の内訳

① 性別・年代 (n=415)

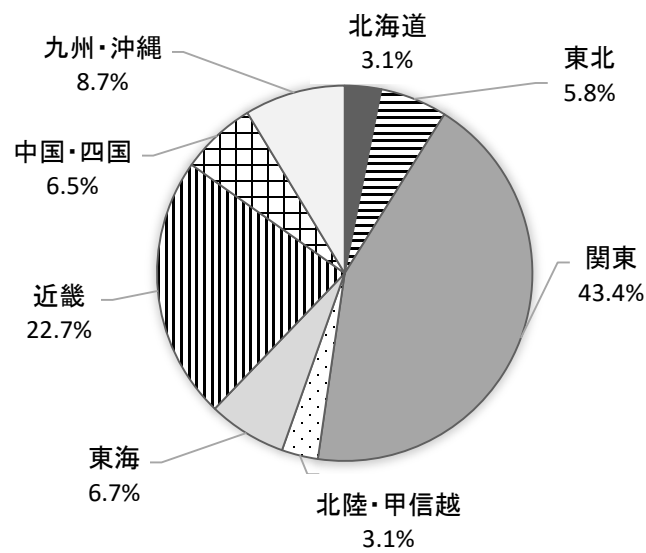


②職業経験 (n=415)



	性別		年代区分				合計
	男性	女性	20~30代	40代	50代	60代以上	
食品生産・加工経験者	81人	59人	22人	39人	49人	30人	140人
	57.9%	42.1%	15.7%	27.9%	35.0%	21.4%	100.0%
食品流通・販売経験者	44人	23人	11人	19人	24人	13人	67人
	65.7%	34.3%	16.4%	28.4%	35.8%	19.4%	100.0%
研究職経験者	29人	18人	12人	13人	9人	13人	47人
	61.7%	38.3%	25.5%	27.7%	19.1%	27.7%	100.0%
医療職経験者	11人	17人	7人	5人	9人	7人	28人
	39.3%	60.7%	25.0%	17.9%	32.1%	25.0%	100.0%
教育職経験者	13人	36人	6人	11人	23人	9人	49人
	26.5%	73.5%	12.2%	22.4%	46.9%	18.4%	100.0%
食品関係行政職経験者	18人	9人	2人	3人	4人	18人	27人
	66.7%	33.3%	7.4%	11.1%	14.8%	66.7%	100.0%
その他	16人	41人	22人	12人	15人	8人	57人
	28.1%	71.9%	38.6%	21.1%	26.3%	14.0%	100.0%

③居住地 (n=415)



④モニター継続年数 (n=415)

